

## 東京ケーブルネットワーク株式会社

### “防災無線をテレビで聞く”データ放送の音声機能を活かした新サービスを実践



文京区・千代田区・荒川区を対象にサービスを提供している東京ケーブルネットワーク(株) (代表取締役社長執行役員・棟田 和博氏。略称 TCN) では、防災行政無線の音声が入るシステムを独自開発し実践トライアルを開始した。今後、検証結果を経て本サービスを開始する計画だ。

瀬間健司氏 制作部 次長

#### 防災無線が聞こえにくいという声に対応

文京区・千代田区・荒川区の18万世帯を対象にサービスを開始している東京ケーブルネットワーク(TCN)では、コミチャンのデータ放送機能を活用し、防災行政無線の音声をテレビで聞こえるシステムを開発した。

このシステムは、住友電工のOFDM送出機とメディアキャストの「DataCaster M3」を活用したもので、防災行政無線の設備改修や、家庭内に新たな機材を設置することなく既存のテレビ(コミチャン)で防災無線の音声が入る点が最大の特徴である。

また、自治体の担当者にとっても、「特段の業務が発生することなく、テレビを通じて家庭内に防災無線の情報(音声)を届けられる点」を高く評価しており、「雨や騒音で音声が入らない」、「集合住宅の高層化やビル陰で音声が反響して内容が伝わらない」といった課題が解消できるとして、消防や行政、ケーブルテレビ事業者から大きな注目を集めている。

#### 簡易な「防災無線受信機」を活用

今回のシステムを考案した瀬間氏は「住友電工の装置とメディアキャストのデータ放送システムを組み合わせることで、テレビから防災無線の音声を出せることが可能だということは技術的には知っていた。しかし、防災行政無線が発報された時、それをTV画面で知らせる仕組みはなかった。そこで、行政から貸与された防災行政無線戸別受信機と音声検知装置等を組み合わせることで解決した」という。

これにより、防災無線の受信機で受信した音声は、接点信号装置を経てデータ放送シス

テムに伝送され、受信契約者のテレビで音声が入るという仕組みが完成し、防災無線の発報と同時に、受信者宅のテレビ画面には「防災無線が発報された」という表示が映し出される。

具体的には、自治体が防災行政無線を流すとコミチャンの画面に「防災行政無線をテレビで聞く」という文字(オーバーレイ表示)と同時に「黄色ボタン」のマークが表示され、リモコンの「黄色ボタン」を押すことで音声が入るという流れである。

また、コミチャンを視聴中でなくとも、「防災行政無線の音が入るならチャンネルをコミチャンに切り替えることで防災無線が確認できることから、ケーブルテレビの加入者にとっては大きな安心材料になる」と瀬間氏。

#### 大手通信事業者やアンテナ直接受信では得られないケーブルテレビ独自のサービスで解約防止や新規加入獲得のキーサービスとして貢献度大

TCNでは以前からメディアキャスト製データ放送システムを導入し、文京区・千代田区・荒川区の加入者に対して様々なサービスを提供している。今回、「防災行政無線サービス」と同時に、今までテレビをインターネットに繋がないと見られなかった約100の写真付きの町会自治会情報を放送波にのせて伝送を開始した。

これは、「DataCaster M3」のグループごとに放送できる「マルチサービス機能」を活かしたサービスで、今回の「文京区・千代田区・荒川区での防災無線の音声サービスもこの機能(システム)があったからこそ実現できた」と(瀬間氏)という。

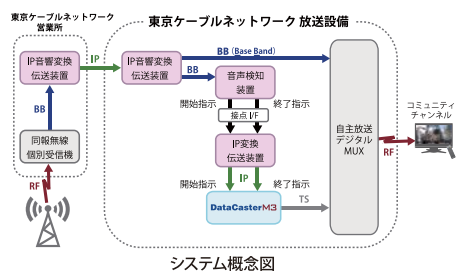
また、「このシステムはテレビの視聴中に



防災行政無線の音声が入る場合のテレビ画面(オーバーレイ)



データ放送町会情報画面



自動的に音声(防災情報)が入るという仕組みではないので、決定的な防災対策にはならないが、防災意識を高める啓発にはなる。単純な技術の組み合わせなので、追加設備も必要ない。ケーブルに加入すれば防災無線がテレビで聞こえるというのは大きなメリットで、解約防止にもつながる」と瀬間氏。

都市部に限らず、ケーブルテレビによる「安心・安全サービス」は必然のサービスとなるだけに、データ放送による「防災無線の音声受信」は画期的なサービスといえるだろう。